

北海道で最古のプラネタリウムとして

地元の新聞、日刊宗谷さんに取り上げていただきました。

令和4年6月5日の記事より

宗谷ほうき

青少年科学館のプラネタリウム、1974年の科学館設立以来なので48年もの古い機械だが、まだまだ現役で活躍中。▼製造元の五藤光学研究所のホームページを見ても、これより古い物も全国で16機ほど在った。それでも最古の部類であることは間違いなく、道内では1番古いらしい。▼72年から作られているGX10型と云うらしいが、当時としてはもちろん最先端であったであろう6500個の星を投影できた。一方で最新型は100倍の65万個が投影でき、本体も小型化されて動作もコンピューター制御。プログラムをあらかじめ入力しておけば、ボタン一つで上映できるという。▼一方で稚内の物は自動で動く物は一つもないアナログ式で、ダイヤルとスイッチでの手動操作。録音しておいたナレーションに合わせ、星空の回転や星座の投影などは職員の職人芸によるもの。ストーリーも毎回星座にまつわるギリシャ神話のスライドを交え全て手作り。

▼上映するにも大変な機械ではあるが、じっくりと眺めてみればアンティークな美しさも感じられる。ゆっくりと回転する本体はもちろん、職員が悪戦苦闘する操作盤とおぼろげに光る丸いメーター類が並び、さながらアニメの宇宙戦艦ヤマトや銀河鉄道999といった松本零士氏の作品のワンシーンのよう。▼どちらも宇宙を旅する話であるだけに、時にはプラネタリウムを眺めながら宇宙旅行に思い耽るのも悪くない。